

■「最前線はまかせろー夏に鍛える 1部6校のDLたち」⑥

若い力とシステムで一室蘭工業大

ベストイレブンのRBを擁しながら、昨季は1勝1分け3敗の4位と不満の残る結果に終わった室蘭工業大ブラックパンサーズ。大量15人の新入生を含む選手29人で臨む今季は、新戦力の成長が巻き返しの鍵を握る。先発4人のうち3人が入れ代わったDL陣も期待の重量1年生が抜擢された。DLリーダーの竹原爽（3年）は「4年生3人で固めた去年よりパワーが落ちるが、LBとシステムで守る」と決意している。

今季の先発DLは180センチ、93キロの竹原、180センチ、81キロの森田雪風（2年）、174センチ、103キロの川浪桜祐（2年）、175センチ、105キロの丹羽郁太朗（1年）の4人。竹原以外は初スタメンになるが、潜在能力に寄せるチームの期待は大きい。特にインサイドを守る川浪と丹羽の100キロコンビは魅力たっぷり。竹原リーダーは「川浪はスタートが速くスピードもある。丹羽は高校の柔道部出身で上腕も強い。DLの動きを覚えたら楽しみ」と言う。バックアップは4年生1人と1年生6人。竹原リーダーは「体の大きい1年生が多いのでフィジカルは通用する」と期待する。



春のオープン戦は北海道大に0－50、熱中症の恐れがあったため前半で終了した北海学園大戦も7－35と完敗したが、竹原リーダーは「1年生たちに経験を積ませられた。DLは力負けしたが、貴重な実戦経験になった」と前向きだ。8月13日から始まった夏の強化練習は、攻守兼任も多いチーム事情のために体力づくりが最大のテーマになる。そして、DLとLBの7人のシステム確認も時間をかける。「状況に応じたそれぞれの動きを体で覚える。アメフト知識も深めたい」と、来年、再来年も見据えた強化に励むつもりだ。

秋季リーグの初戦は北海道大戦。竹原は「DLリーダーとしてみんなを引っ張っていくプレーをしたい」と力を込める。森田も「長い手を生かしてOLをコントロールしてタックルに行く。DLがランプレーの穴をふさぎ、LBがキャリアーを仕留める守りを」と意気込んだ。（塚田博）

【写真】

「若いDL陣の成長で巻き返しを」と誓う竹原（左）と森田